

2024年3月19日

法政大学中学高等学校 3学期終業式校長挨拶

植物にたとえると、成長に欠かせないのは土と水。「ふかふかの土壌」心から安全を感じて安心して本音で話せる場が成長にとって大事です。安心の反対にあるものは緊張・不安・屈辱・孤立・閉塞感。安心できる場の感じ方は人によって全然違います。ある人が安心して語れるようになるためにはそこにいる1人ひとりが貢献しなければなりません。「ここならいてもいいな」と思える場所でない、のびのび考えることはできません。「ここなら話せる」場をつくれれば問いが生れ面白くてワクワクします。特に若い世代は「人を傷つけちゃうかも」「自分が傷つくかもしれない」と対話から遠のくかもしれません。だからここなら話せると思える場をもっとつくりたいと思います。

今性別にかかわらず生きづらいのはなぜでしょう。日本には家父長制的なもの、女・子どもは黙って従えのような発想が残っており、いかに解放されるかが課題だと思います。例えば家事を担うのはお母さん、という役割があることです。一方で、子どもの権利条約にあるように、子どもは声を聴き取ってもらうことで成長します。負の感情も含めて受け止めた時に人の心は変容します。昨日本校では研修を行い、無意識のバイヤス・思い込みに気づくような対話の場会を設けました。私は「子どもの利益」「子どものために」という言葉は、指導者や親のエゴであり、子どもの意志の尊重が大事であることに気づかされました。

最後に生きづらさから抜け出すヒントです。自然発生的にはいきません。

- (1) 周囲に助けを求め、助けてと使いやすい環境をつくりましょう。
- (2) 自分の安全な場所はまず自分で実感しましょう。
- (3) 感情の筋トレをして、心の動きを感じ取り言葉にしましょう。
- (4) 対話のルール。人の話を馬鹿にしない、聴いたことを外に持ち出さない、肯定的でみんなのためになる言い回しをしましょう。
- (5) NO SIDEの精神 激論しても水に流して健闘をたたえあいましょう。

以上、生きづらさから抜け出すヒントです。

では、それぞれのセクションで、新年度にむけて希望を語りましょう！